彩時記

新型コロナウイルス 感染防止対策としての 「面会」のカタチ

「おばあちゃん、久しぶりだね。」 「私の声、聞こえるかなぁ。」

パソコンの画面に映るご入居者に、ご家族が 手を振りながら話されています。新型コロナ ウイルスから施設のご入居者を守るため、

「面会」が禁止されていた時期の一コマです。画面越しの「オンライン面会」システムが動き始めて約2カ月ぶりの再会。

「会いたかったよ。元気そうで良かった。」

久しぶりの再会にお互いが満面の笑顔で、フロアは喜びの声が溢れていました。慣れないパソコン画面から聞こえる声に、最初はおっかなびっくり。不思議な表情でお話されていましたが、そこはやっぱり家族の絆!!画面に映るご家族の顔に思わずタッチする場面も!!画面越しに生まれたばかりの曾孫さんも登場され、より一層くしゃくしゃの笑顔で喜ばれていました。



↑ 北海道に転勤になってしまった息子さん との面会。職員も一緒にご挨拶・・・

2020年7月

第84号

発行:社会福祉法人のぞみ 池田市古江町18番地の2

古江台ホール





↑「元気にしてるか?」



↑ ご家族がベランダ側から 「窓越し」の面会

国内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大の 状況を鑑み、これまでご入居者への面会を制限させてい ただいておりましたが、一定の条件を満たした上での面 会を7月上旬より再開させていただいております。

しかしながら、高齢者がウイルスに感染するリスクが 無くなったわけではないため、近隣都市の感染拡大状況 を見据えながら、これまで通り高齢者の命を守るために 必要な対策を徹底していきます。

ご入居者とご家族、そしてスタッフとの絆をかたく結び、大切な人との関係が途切れないように。そして、いつかマスク無しで面会できる日が必ず訪れると信じて、今は「できる事」を確実に実施していきます。

皆様には今しばらくご迷惑をおかけしますが、ご理解 ご協力のほどよろしくお願いいたします。

私たちの 新型コロナ対策!

長期化の可能性が懸念される新型コロナウィルス。高齢者への感染防止・集団感染(クラスター)回避、そして「新しい日常」の模索に、これからも取り組んでまいります。



人の対策 法人の対策

- *「新型コロナウィルス感染防止に向けた対応」 マニュアルの策定、周知徹底
- * 新型コロナウイルスに関する新たな情報を、 法人専用のウェブ掲示板で随時共有
- * ガウンテクニック(防護服の着脱方法)の研修を全職員に対して実施
- * 施設内及び車両の消毒及び換気





ご入居者・ご利用者への対応

- * 毎日体温を測り記録
- * 外出時はマスクを着用し、外では飲食をしないで買い物やお散歩を楽しんいます
- *カフェの出前サービス
- * 飲食前の手洗いやアルコールでの手指消毒
- * お互いに手を伸ばしたら手が届く範囲以上の距離を保って座る



- * 出勤前の体温計測
- * 出勤時のうがい・手洗い・消毒
- * 通勤時及び勤務中は常時マスク着用
- * ケア毎の手洗い・消毒の徹底
- * 勤務時間外の、不要不急の外出自粛
- * 休憩時間中は互いに一定の距離を保って 食事をする

来館者への対策

- * オンライン面会、窓ごし面会、ブログ での元気な顔写真と 一言メッセージ発信
- * ご利用者、ご家族ともマスク着用での 直接面会の開始
- * 直接面会は15分まで、飲食をともに しない、キープディスタンス
- * ご家族の入館時は、パブリックスペー



↑ 先日100歳をお迎えになられた デイサービスのご利用者。 マスク作りもお手のもの!

私たちの取り組みの一部をご紹介 しましたが、感染症が蔓延する事を 恐れるあまりにご入居者の暮らしの 質が下がってしまったり、またリハ ビリなどの機会が奪われてしまうこ とが無いよう、「新しい生活」の在 り方を模索し続けています。

このようなご時世ですが、あたり 前の日常に少しでも近づけるよう、 これからもご高齢者の暮らしと健康 を支えていけるよう頑張ってまいり

教えて快護♪ ~認知症ケア~

2020年4月7日『緊急事態宣言』が発令され介護サービスの利用を自粛されるケースも見受け られました。それに伴いご家族の介護量が増え、様々な形でコロナの影響が影を落としました。 今回家庭内での介護の一助になればと『認知症ケア』について紹介させて頂きます。

認知症という言葉は一般的に知られていますが、認知症にも色々違いがあることは意外に知ら れていません。①アルツハイマー型認知症、②脳血管性認知症、③レビー小体型認知症、④ピッ ク病など種類があり、幻覚や幻視、感情失禁、反復行動など現れる症状にも違いがあります。認 知症のタイプを知ることにより、適した対応が可能となる場合があります。

また認知症状には『中核症状』と『周辺症状』があります。中核症状は一般的に認知症を抱え る人には誰にでも現れる症状と言われており、記憶障害、判断力の低下、実行機能障害といった 症状が現れます。周辺症状は取り巻く環境や関わりの影響を受け、不安感や無気力、幻覚や異食 行為、攻撃的な言動など行動や心理症状に変化が現れます。注目すべきはこの『周辺症状』で環 境や関わり方次第で【基本的に治る】ものと言われます。私たち介護現場においても、ご利用者 個々の症状に合わせ急かしたり無理強いせずご利用者に寄り添った対応をさせて頂いています。

認知症は薬で治す病ではなく、介護によって【癒す病】であるという視点。やさしく声をか け、そっと体に触れる。それだけでも症状は緩和されます。

皆様の介護が、どうかゆとりある"快護"となりますように。





古江台ホール特養棟(東館)増築工事

~2021年春オープンまでの軌跡~





新・駐車場が完成!

古江台ホールに新たに18床(1ユニット9名×2フロア)が 増築されることになりました。先日施工会社が決まり、7月 下旬より工事が始まります。完成は2021年3月末を予定して います。

着工に先立ちまして、この度新しく駐車場(20台)が完 成しました。工事期間中は北館奥の駐車場が使用できなくな るため、建物から少し離れた場所(古江台ホールより約300 メートル坂を下ったあたり)になりますが、職員を中心に使 用する駐車スペースになります。ご来客の皆様には、これま で通り北館前の「来客用」駐車場をお使いいただけますの で、悪天候の時も安心してお越しください。

ユニット型特養とは、ケアの単位を1ユニット10名までの小グル ープにして、ご入居者の生活習慣や身体状況に合わせた「個別のケ ア」が行える環境を整えた特養の事を言います。

職員主導で管理される「施設」ではなく、その人らしい日常生活 を送っていただく事を目的とした「生活の場」であり、どんなに重 い身体障がいや認知症があっても、これまでの生活習慣やその人ら しさが尊重され、「自立(自律)した生活」を送れる事。私たちは

そんな生活を支援しています。

手際よくお皿を洗ってくださる ご入居者。若い職員にご指導い

性。「むかし習っていたのよ」

ただく事もしばしば。⇒

ユニットに置いてあるピアノを弾く女



↑ リビングの一角で新聞に ゆっくり目を通す男性

ユニットの職員と一緒にピザを焼く。 やっぱり食べる事は一番の楽しみ⇒





社会福祉法人のぞみ

- ■特別養護老人ホーム「古江台ホール」■特定施設ケアハウス「古江台ホールひまわり」■古江台ホール居宅介護支援事業所
- ■古江台ホールデイサービスセンター■古江台ホールショートステイ■古江台ホールヘルパーステーション■白寿荘
- ■古江台ホールさくらそうデイサービスセンター■いけだ看多機さつきつつじ■複合介護施設「川西小花の生活」